

## VISTA X ユーザーレポート

## 株式会社福岡放送 様

## VISTA X-52F



Aサブに VISTA X を導入



株式会社福岡放送  
技術局 制作技術部  
川邊 淳一

## Aサブ

Aサブは、弊社で最も大きなスタジオを持つサブであり、レギュラーの生放送番組、ローカル制作番組の収録、スポーツ中継の制作サブ、そして大型特番(5時間生放送など)の際にも使用するマルチなサブです。2005年2月に新社屋に移転して10年、旧社屋から移設した音声設備を更新することになりました。

## フェーダータッチの良さ

数ある卓の中から3社に絞り、デモをお願いし運用するスタッフで検討しました。最終的にVISTA Xにした大きな決め手は「フェーダータッチの良さ」です。音質は言うまでもなく重要ですが、それと同時に、体の一部として感覚的な操作が必要な部分にストレスが無いことも重要だと思います。例えるなら絵描きの筆の感覚でしょうか。また、ユーザーインターフェイスが良く、わかりやすく操作が簡単で、アナログ的な使い方ができていた旧音声卓の操作感覚が一番近かったのも一因です。その他、VISTAの選定理由については皆さんご存じの通りですが、列記しますと、ピスト

ニクスの使いやすさ、音質の良さ、マトリクスアサインのわかりやすさ、納入実績から見える安定度、国内でのスピードのあるサポート体制、Xになってさらに良くなった冗長性と安定性、といったところで。

## モニター環境を改善

この更新でモニタースピーカーまわりの調整をきちんと行い、正確な音が聴ける環境を構築したいと思っていました。今まではモニター棚面の反射等により、音像がぼやけ、定位感がわかりにくく、音を作りにくいことがあったからです。今回は音響調整の全行程に立会いましたが、小さな変更の積み重ねで変化していく音に驚きながらの作業は、とても貴重な経験となりました。音声卓や配線等も新しくなり様々な要因があると思いますが、まず定位がぼやりわかるようになり、これまでぼやけていた音がシャッキリとして、細かい音が聞き分けられるようになりました。素材の奥行き感も良くわかります。本当の意味で音を作る際のリファレンスとなりえる環境になったと感じています。また、VISTA Xになり見た目が良くなったと思います。ブリッジの黒と卓面の色の変更により締まった印象です。今回作っていただいた特注家具類も非常に良く、VISTAにマッチしていてスタッフからも大変好評です。使い勝手を考慮した機器

配置も含め、居心地の良い環境となりました。

## システム関連

今回の音声設備更新は映像系更新と同時にではないため、既存のシステムにうまく新しい機器を合わせて正常に動作させることも重要でした。タリ制御やカフシステム等に関しては、旧社屋からの移設品で図面が存在しないものもありましたが、事前に入念な現地調査や動作解析をしていただいたことと、工事時にも柔軟な対応をいただき結果的にすべてうまくいきました。

## 運用してみた

2015年2月1日の生放送で初運用となり、自ら操作を行い大変緊張しましたが、スムーズにOAすることができました。日本で初めてVISTA Xの音を放送に乗せることができ、うれしく思っています。運用してみて改めて音質の良さを実感しています。クリアで前に出てくる音と言いますか、特に顕著なのがBGMで、音源そのままの音が出ますので、小さなテレビでOAを聞いていても違いが良くわかります。今秋からはセット拡大・変更などに伴い、平日夕方の番組【めんたいワイド】をAサブで制作することになり、VISTAはほぼ毎日稼働することになりました。これからもFBSの番組制作で活躍してくれることと思います。